

浅川賞

中根明夫「細菌感染症に対する宿主応答に関する研究 - 個体レベルの解析」

中根氏の研究は、細菌感染における宿主サイトカインの動態と役割に関してマウスを用いた独自の動物実験から多くの優れた研究成果を挙げている。とくに、1988年に報告した主論文1は、抗サイトカイン抗体の前投与がリステリア感染マウスの致死にどのように影響するかを詳細に解析して、リステリア感染における各種サイトカインの応答とそれらの役割を明らかにした先駆的な論文となっている。その後も、リステリア感染防御に関わる $IFN\gamma$ 、 $TNF\alpha$ 、IL-12などの産生調節を支配する仕組みを明らかにした。また、従来、サイトカイン応答の観点から対象となることのなかった黄色ブドウ球菌感染モデルを確立し、 $TNF\alpha$ と $IFN\gamma$ がそれぞれ感染防御と増悪に働くことの違いを示し、且つ、感染増悪に働く $IFN\gamma$ の産生をmTSST-1投与で抑制できること、クラッキング因子A組換え体が同様の予防効果があることを示している。さらには黄色ブドウ球菌エンテロトキシンの嘔吐作用の新たな機序の解明にも大きく貢献したと判断された。

加えて、中根氏は、日本細菌学会の評議員、理事、そして総会長として本学会の発展に多大な貢献をしてきた。以上のように中根氏は、細菌感染症に対する宿主応答に関する個体レベルでの研究で先駆的な成果を挙げると同時に日本細菌学会にも顕著な貢献が認められるので選考委員の全員の一致により、浅川賞に相応しいと判断された。